

C₂ 父が酒を飲むこと。

欲求充足度は、小学校の場合、友だちや教師から承認をえたい欲求が底流にかなりあるのが目だが、中学校では、活動力の発散（エネルギーの昇華）が大事で、それがパーソナリティ形成に大きく左右していることが面接調査よりうかがわれた。

欲求充足度は、父母を例にとると小学校では、弟妹より多く叱られるとか、自分への関心が問題だが、中学校は、基本的な問題より性別・能力による差別が意欲と自信喪失へ発展する。また経済を考えた将来、真の友人としての異性への目が、正しく育て社会的承認と自己実現の課題が根本問題のように思えた。

③ お茶のいれかた

表34. (単位%)

項目	学年		小. 5		小. 6		中. 2	
	男	女	男	女	男	女		
できる	80	100	86.7	100	90	100		
できない	20	0	13.3	0	10	0		

小・中学生とも80%以上が、お客さまがいらっしやったらお茶をつぐことができるかと語っている。その状態はどうかア～エまでできあがった。P16では、五段階法であるが、傾向としては、似かよった結果が得られた。

ア、きゅうすにお湯のそそぎかた

お茶の種類によって、時間もかわるが、ここでは煎茶や玉露を想定し、1～2分おくことを正答として結果をみている。

表35. (単位%)

項目	学年		小. 5		小. 6		中. 2	
	男	女	男	女	男	女		
すぐつぐ	58.6	16.7	33.3	25.0	80.1	30.1		
1分おく	37.9	40.0	40.0	70.8	19.9	69.9		
2分おく	3.5	43.3	16.7	25.0	0	0		
3分おく	0	0	10.0	4.2	0	0		

湯をきゅうすにすぐつぐのは、女子より男子に

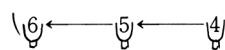
多い。6年生は「5年の来客の接待」で学習したことが生かされ正答率が高いが、中学生は、忘却も目立ってくる。

湯をきゅうすに「すぐつぐ」というが、湯が高温だときゅうすにうまくはいらないことを経験するが、知識や技能の習得過程で実習されない科学的理解がされず、生きて働く学習になってこそ、実習の再認識をと叫びたい。

イ、お茶を同じこさにつぐふう

表36. (単位%)

項目	学年		小. 5		小. 6		中. 2	
	男	女	男	女	男	女		
1. じゅんに つぐ	45.3	43.3	53.3	6.8	52.6	15.1		
2. 半分づき逆まわりにつぐ	31.0	40.0	16.7	46.7	5.3	60.0		
3. 半分ずつづきはじめにもどってつぐ	20.7	16.7	30.0	46.7	42.1	24.9		

同じこさにつぐことの正解は2であるが、みんな知っているも同じこさにつぐ実習を通し、お客様に対し人間同志の温かさと快よいふん囲気、茶の分量の吟味から同じこさへの配慮など、科学的に比較検討する学習の場を講ずる必要があろう。たとえばお客の3人のとき矢印の方向に1～6とつぐこ

 あい、知識の定着をはかりたい。

ウ、湯の量

茶わんいっぱい湯をついだ者4.0%、半分ついだ者5.4%、八分目ついだ者90.6%で、大部分の者が正答である。「腹八分目食べる」とか「茶わん八分目つぐ」などの母の生活態度が子に反映し、自分の動作をより適切にコントロールしていてもよからう。

エ、つぎのこしの湯は、きゅうすにあるか

全体で残さない者、67.3%、残しておく者32.7%で、後者は、湯をそのままにし、茶のでがらしになった経験から、湯をのこさないよう改めた